

志木ロータリークラブ

2025-26年度 国際ロータリー 会長 フランチェスコ・アレツツォ 「UNITE FOR GOOD」
2025-26年度 第2570地区 ガバナー 相原 茂吉 「よいことのために手を取りあおう」
2025-26年度 志木ロータリークラブ 会長 金剛 光裕 「前進」

第2456回 例会

2026-2-18

- ◎司会 塩野 章 幹事
- ◎点鐘 金剛 光裕 会長
- ◎ソング 手に手つないで
- ◎ソングリーダー 林 康雄 会員
- ◎四つのテスト 林 康雄 会員
- ◎ゲスト 松井 理恵 博士
(跡見女子大学 准教授)



ソングリーダー・四つのテスト 林康雄会員



天照大神は、タケミカヅチを出雲に送り込み、無事に国譲りを成功させました。その後、アマテラスは、地上を治めるにあたって、ニニギノミコトに三つの宝物を渡しました。

これが八坂の勾玉（やさかのまがだま）、草薙の剣（くさなぎのつるぎ）、八咫鏡（やたのかがみ）で、「三種の神器（しんき、じんぎ）」と呼ばれています。

ニニギは、知恵の神オモイカネ、力の神タヂカラオをお供につけて、地上へ向かいました。

このようにして、アマテラスの孫のニニギが地上を治めるために降り立った出来事が「天孫降臨」で、古事記におけるクライマックスとも呼ばれています。

ニニギははじめ、アマテラス生誕の地である、宮崎県の高千穂に降り立ちました。

高千穂の地で、ニニギは運命の出会いをします。それがサクヤヒメとの出会いです。

ニニギはサクヤヒメに一目惚れをしました。

「どうか、私の皇后になってくれないか」とプロポーズをすると、サクヤヒメは父に相談して返事をすると言いました。この話にサ

「会長挨拶」

会長 金剛光裕

皆様こんにちは。会長の金剛です。

2月なのに暖かかったり寒かったり、不安定な天気が続きます。体調が変化しやすい時期ですが、ご自愛下さい。さて、先日は新入会員歓迎会にて多数のご参加を頂き有難うございました。

長島・山形両会員とも、意気込みも強くこれからのロータリー活動にとっても熱心に取り組んでいただけたと思います。会員一同で盛り上げていきましょう。

さて本日は、4月に会員旅行で高千穂峡に行きますので、それにちなんだお話を致します。

クヤヒメの父はたいそう喜びました。

サクヤヒメの父は、結婚を認めたくて、さらにサクヤヒメの姉のイワナガヒメも一緒にお嫁にもらってくださいと言いました。この申し出に対し、ニニギは悩みました。

実はイワナガヒメは、岩のように丈夫そうな体をしてはいましたが、顔立ちが美しくなかったからです。しばらく考えた末に、イワナガヒメとの結婚を断ることにしました。

サクヤヒメの父はとてもがっかりし、さらにニニギに向かってある警告をしました。

「サクヤヒメは、花が咲くように大きく繁栄することを意味しています。また、イワナガヒメは、その繁栄が岩のように丈夫でいつまでも続くことを意味しています。2人が一緒になければ、これから生まれてくるあなたの子どもの寿命は、花のように短くなってしまおうでしょう」と言い残しました。これまで神生みから誕生してきた多くの神々の寿命は、非常に長く続いていました。しかし、ニニギがイワナガヒメを嫁にもらわなかったことにより、神にも寿命が生まれ、繁栄はしても、いつかは死んでしまう存在となったのです。つまり、神から人間への切り替わりのきっかけとなったのです。そして、このニニギの3代目の子孫こそが、初代天皇神武天皇となり日本を治めていくのです。

神武天皇が天皇に即位したのが2月11日で、現在では「建国記念の日」として祝日の1つに数えられています。神武天皇は宮崎県から東へ向かい（神武東征）、奈良県の大和に都を作り、日本をおさめることに成功しました。

さて本日は、跡見学園女子大学観光コミュニケーション学部まちづくり学科 准教授・博士(社会学) 松井理恵先生より卓話を頂きます。とても楽しみです。

本日もよろしくお願い致します。

「幹事報告」

幹事 塩野 章

1. 地区事務所より3件受信

①「クラブ活性化セミナー2026」開催案内

日時：4月27日(月)～28(火)

場所：パシフィコ横浜会議センター5階

②米山記念奨学生終了式及び歓送会案内

日時：3月20日(金) 受付 15:00

開会 15:30

場所：アルカーサル迎賓館川越

登録料：6,000円

③「第24回RI台湾囲碁大会」案内

2. 志木市商工会より令和7年度会員交流及び新規加入事業者を囲む会開催案内受信

日時：3月17日(火) 17:00～19:30

場所：志木市民会館仮設会議室3、4

参加費：4,000円

3. ハイライトよねやま Vol.311 2026.2.13 発行受信

「委員会報告」

●青少年奉仕委員会 委員長 宮原俊介

青少年奉仕委員会として、2月5日(木)に志木市青少年育成市民会議主催の青少年非行・薬物防止講演会に出席しました(出席：西浦会員・宮原一会員・宮原俊 会場：志木市総合福祉センター)。

2月8日(日)には、第2570地区主催「第18回ライラデー」に出席しました(出席：西浦会員(地区役員)・宮原俊 会場：ウエスタ川越)。

ライラ(Ryla: Rotary Youth Leadership Award)は、「青少年指導者養成プログラム」と呼ばれ、中高生を中心に地域社会で活躍する人材を育成するプログラムです。今回のテーマは「多文化共生社会における協働と対話」として、近年話題になっている我が国の多文化共生におけるZ世代の在り方の模索する時間となりました。特に多文化社会の中で生活してきた当地区のROTEXの経験談・海外留学生を含めた質の高い中高生のディスカッションを通じて、現代社会における多文化共生について考える機会となりました。我々、ロータリアンとしても、移民問題を含め、多文化理解に対して、いかに付き合っていくか考えさせられる機会となりました。

「『ロータリーの友』記事紹介」

雑誌委員会 委員長 宮原克平

『ロータリーの友』2月号記事紹介

【横組】

P5-12 平和を願う言葉の記録

沖縄の戦中の少年兵が経験した戦争中の記

出席は会員の義務です。メイクアップを忘れずに！

第2グループ各RC 例会日・会場一覧(順不同)

■朝霞RC 毎週(火) 12:30～ 埼玉りそな銀行朝霞支店

■新座RC 毎週(木) 12:30～ ベルゼゾン

録、ぜひご一読ください。

戦後生まれの会員各位には遠い世界と感
じるかもしれませんが、80年前の現実です。

P20-21 ロータリー平和センターの紹介
平和フェローが平和を育む学びの内容が理
解できます。

P32-33 ロータリー行動計画
これからの会長・幹事が大変だなと感じる
記事です。

【縦組】

P2-6 不登校の問題
不登校児童の対策について今までの対応が
適応していない問題と児童の尊厳の軽視が
根本原因との対処法が記載されています。
会員のお子さん、お孫さんにも不登校の症状
が現れたら思い返して読んでいただきたい。

P17 あるある相談室
私もロータリアンである前に老害になら
ぬよう気を付けます。身に染みる回答です。

「卓話者紹介」

宮原俊介会員



今回、跡見学園女子大学、観光コミュニ
ティ学部まちづくり学科准教授で、社会学者の
松井理恵先生にお越しいただきました。

松井博士は昨年、細田学園高校で行われた
当第 2570 地区のインターアクト年次大会で
もご講演をいただいております、ロータリークラ
ブにご尽力、ご協力いただいている方です。

私たちロータリーは奉仕団体であると同
時に活動内容はボランティアになります。その
活動の多くは若者にサポートしてもらって成
り立っているものです。同じボランティアの
精神を維持している大学生を、一番近くで見
ていただいております松井先生からお話をい
ただき、私たち志木 RC の活動の参考にさせ
ていただければと考えております。(談)

「卓話」

「ボランティアに関する大学生の意識

—自発性と社会貢献の観点から—

跡見学園女子大学 観光コミュニティ学部
まちづくり学科 准教授 松井理恵博士(社会学)



私は 2019 年度から 2025 年度にかけて、跡
見学園女子大学の「NPO・NGO 論」という
授業を担当してきました。この授業では毎年、
学生たちがボランティアについて話し合う機
会を設けてきました。そこで、長年にわた
って地域社会でボランティア活動に携わって
きた志木ロータリークラブの皆様と、この授
業を通じて得られた知見を共有して意見交
換ができれば、と考えました。

学生に「ボランティアが自発的か否かを
決める条件は何か？」と問いかけてみた
ところ、さまざまな意見が出ました。個人
の内面から止むに止まれぬ思いでおこな
うボランティアは自発的であり、自分が所
属する組織などで「みんながやっている」
という圧力を感じたり、立場上断れな
かったりする活動は自発的ではない、
という意見が挙がりました。

また、ボランティアによって発生する
対価に注目する学生もいました。お金を
もらうか、もらわないか。では、お金
ではなければよいのか。ジュースや金
券はよいのか。大学の単位になる場
合はどうか。受験や就活に役立つ場
合はどうか。このテーマについては、
議論が尽きませんでした。

話し合いでは、特に学校が実施する
地域清掃や奉仕活動について、「正直や
りたくないけれど、学校側から言われ
ているから参加した」という意見が
数多く挙がりました。実際に、教育
機関がボランティアを“経験学習”とし

例会は変更になる場合があります。ご確認下さい

■和光RC 毎週(月) 12:30～ うけら庵

■富士見RC 毎週(金) 12:30～ 島田ビル1F

■新座こぶしRC 第1・第3(水) 12:30～ ベルゼン

て位置づけているため、学生にとっては義務に近いかたちになってしまっているようです。ここには、ボランティアの制度化という問題が指摘できます。

ドイツ文学やファシズム文化の研究者である池田浩士は『ボランティアとファシズム』という著書の中で、東京帝国大学の学生たちによる関東大震災の救援活動がセツルメント設立に至る道筋と、そのセツルメントが強制的に解散され、若者たちが「勤労奉仕」へと巻き込まれていく過程を論じています。自分自身に課題を与える自発的なボランティアが制度化され、全体主義へと傾倒していくプロセスからは、ボランティアにおいて自発性と社会貢献の対象を自由に選べなくなることが大きな問題であることがわかります。

ここで、大学生のボランティアに立ち戻るならば、彼らのボランティアは「止むに止まれぬ」という自発性と、「将来に向けたみずからの学び」を求める主体性という、二つのベクトルのあいだを揺れ動いているように思われます。特に、後者が制度化されやすい点を考慮しつつも、若者たちがボランティアしやすい環境を整えることが今、地域社会に求められているのではないのでしょうか。

【参考文献】

- 池田浩士, 2019, 『ボランティアとファシズム-自発性と社会貢献の近現代史』人文書院
小野奈々, 2024, 「止むに止まれぬ-自発性と非自発性のボーダーに立つボランティア」好井裕明+宮地弘子+石岡丈昇+堀智久+松井理恵編『ボーダーとつきあう社会学-人々の営みから社会を読み解く』風響社



スマイルボックス 神山威仁副SAA